

あいかわ

新年度が始まりました。あいかわアンビシャス広場も5年目を迎えています。今回は広場を作った思いと、その生立ちをよりたくさんの保護者の皆さまに知っていただきたいと願い、本誌を発行しました。最後までお読みされれば幸いです。



発行：あいかわアンビシャス広場委員会 / 合川小学校父母教師会

親たちのレポリレーション 広場の始まり

あいかわアンビシャス広場は、学校週五日制が始まった2002年に誕生いたしました。

その当時、特に保護者側からは学校週五日制に対する漠然とした不安がありました。主なものは

- ・学力が低下するのでは？
- ・塾通いが増えるのではないかと？
- ・塾に行く子、行かない子の学力差が広がるのではないかと？
- ・教科書のレベルを落として簡単にすることで即「ゆとり教育」とはならないのではないかと？
- ・・・など。もっとも「子どもが土曜日に毎週家にいるのは困る」という意見もありましたが。

ともあれ、土曜日がただ休みというだけでは意義のある生活がおくれないのではないかと懸念から、当時の学校長と地域との話し合いを重ね、合川独自に何か手だてはないものかと検討を始めました。その結果、その前年から福岡県が独自に始めた「青少年アンビシャス運動」に申請を行う事になったのです。

設立当初の広場の運営は、週4日の開所で、平日は公民館、土曜日は学校を開放して行うというものでしたが「アンビシャス広場」という言葉そのものも広く認知されていないところで、丹念に地域の各団体をまわり、広場の概念を伝えることに腐心しました。しかし、大人も子どもも不慣れな中で、開設当初は地域から「せっかく広場に出かけたけど、子どもは誰も来なかった」と苦言を呈されたりもしました。また「親が子育てを地域に押しつけているのではないのか？」という辛辣な意見もありました。

これではいけないと、その年のうちから広場の開所を平日も学校に変更、地域に頼るよりもまずは親からということで、PTAが各クラス交替で広場を担当するというスタイルを試みました。「学校で遊んで帰ろう」という呼びかけを行ったのです。しかし、週4日開所という負担の大きさもあり、担当者が来ていないという事態も起こり始めました。

結局、運営に理解を示してくれたPTA有志と役員によって広場を運営するという今のスタイルになりました。



広場の歴史

アンビシャス広場自体は、県がその設立を援助するという事から設立当初の補助金が出ました*1。しかし、あくまで広場の設立に対する補助という県の予算の性格から、補助金が数年で終了することは当初から決まっておき、息の長い活動をするために、保険金の捻出などをどうするかも懸念事項となりました。

2003年、広場の運営をPTA活動の一環として明記することで、将来に渡り総ての子どもたちに安心して活動できる場を提供することを役員会から提案、理事会・総会を経て、議決いたしました。

運営スタイルや補助金の有無などの違いはありますが、他の委員会と同列のPTA活動になったわけです。



広場と子どもたち

最初は子どもたちの参加もまばらだったアンビシャス広場ですが、それでもイベント時にはたくさん子どもが集まってきました。特に学校キャンプは、初年度から100人以上の子どもが参加、親父の会や地域の大人たちの支援も受けて、大きなイベントになりました。昨年はずいぶん子どもの参加人数が200人を越えました。

また設立当初の補助金であいかわアンビシャス広場のハッピーを特注、夏の久留米の市民祭「水の祭典久留米まつり」へ6年生は全員で出演するようになりました。鮮やかなハッピーの印象は強烈、また百数十名の子どもたちが一気に踊る様と相まって水の祭典では合川を強く印象づけています。現在この水の祭典での演舞は学校行事となり、合川小学校の新しい伝統を育てています。

その他、自転車競技、パソコン教室、ピースアクセサリー、料理教室、観劇会、科学教室、昔遊び、おてだま・・・枚挙に暇がないくらい、たくさんのイベントを行い、子どもたちは元気にあそんでいます。

これらのイベントはアンビシャス広場独自のものもありますが、多くは公民館のゆうゆう教室、もこもこくらぶなど他団体と共催で行っています。むしろ地域にあって素晴らしい活動を行っているところには、どんどん参加させていただくようにしました。

久留米大学 [B 会] S

そのような他団体との協力関係で、あいかわアンビシャス広場が他地域の同様の広場と違って際だって象徴的なのが、久留米大学のボランティアサークルBBS会の存在です。

親以上の年齢の大人たちと違って、まるで自分のお兄ちゃんお姉ちゃんのような年齢の彼らが一緒に遊んでくれるのです。子どもたちが楽しくないはずがありません。現在、平日の活動は木曜日だけですが、毎週木曜日の開所日には50人以上の子どもたちが集まって、彼らと夢中で遊んでいます。

前述の学校キャンプなどでは、40人以上の学生たちがそれぞれ各班に分かれて、子どもたちのリーダーシップをとっています。子ども好きな学生が集まってくれていますが、それでも子どもたちと接することで、悩むことも多いようです。怒ってばかりはいられないけど、優しいだけでも子どもたちとはつき合えません。彼ら自身にとっても貴重な環境を提供しているのかも知れません。



広場委員長敬白 子どもたちに必要なものは？

完全に休みになる土曜日を子どもたちのために何とかしたいと思って始めたアンビシャス広場の活動ですが、活動を行うにつれ、子どもたちにとって必要なものは何だろうと考えるようになりました。

昔と違って、今は子どもたちの生活は制限されています。多くは学校と家庭の往復だけで、最も多い遊びの時間はたぶん、どの子もゲームでしょう。安全性に対する懸念もありますが、外で遊ぶことは極端に少なくなりました。

近所にやかましいカミナリ親父やいじわるばあさんがいるわけでもありません。学校ではほとんど同じ学年、同じクラスの子とだけ遊びます。ガキ大将もいないけど、泣きべそな小さい子とも一緒に遊ぶことはありません。子どもたちの、社会との接点は非常に希薄で限定されています。

子どもが被害者になる事件がたくさん起こっていますが、数年前、佐世保で子ども自身が殺人事件の加害者になるというショッキングな事件が起こりました。また中学生がホームレスに危害を加えるなどの事件もありました。

彼らに共通しているのは、少なくとも事件を起こ

*1. 経年とともに減額されていますが、平成22年までの補助が決まっています。現在はこの県の補助金とPTAの予算の一部とを合算して運営しています。

すときには罪の意識がまるでないのです。事件が起きるたびに「なぜ？」という気持ちが強くわき上がってきました。報道で示される事件の記事を読むと、直接当事者を知る大人たちの答えは決まっています。

「まさかあの子が」

いったい子どもたちに何が足りないのだろう。インターネットやゲームの過激な世界が与える悪影響も無視できませんが、広場で子どもたちがボランティアの学生たちと遊ぶ夢中な姿を見ていて思ったこと、それはいろんな人たちと接するという「体験」です。

子どもはいつも大人たちを見ています。そしていつも心の中で「ものさし」を作りながら測っている。「ここまでしたら怒られる、ここまでなら大丈夫」「こうしたらあぶない」「怪我をすると血が出てきて痛い」「叩いたり叩かれたりしたら泣いちゃうかも」こんな事は、ことばで教えられてもなかなか身に付かない。いのちの大切さも子どもたちは様々な体験によって初めて気づくものだと思います。

学力も大変大事です。特に小学校時代に身につけておくべき基礎的な教養は、将来に渡って子どもたちに大きく影響します。ですが、最も必要なことは、子どもたちが社会でもまれることだと思います。勉強を教えてくれる先生・学校、無条件に守ってくれる家庭だけではなく、様々な人、様々な年齢の多くの人と接する体験を持つことが子どもたちのこころを大きく成長させてくれます。そんな「あそび」の時間がとても大切です。

様々な子どもの事件を見聞きしたとき、私は自分の子だけが絶対ではないと思いました。1000人に一人、問題を起こす子がいれば、同じ割合で自分の子の心の中にもそんな未熟さが潜んでいると思いました。



合川小学校は児童数が800人以上という、市内でも指折りの大規模校です。残念ながら、すべての子どもが家庭に恵まれているという環境ではありません。学校と家庭だけでなく、どこかで子どもたちの「こころ」を育ててくれる「ゆりかご」が必要だと思ふようになりました。

いろんな年齢の子どもたちが、思い思いに、無条件に、夢中で遊べる場所。もじもじしておとなしい子、やけにハイな子、まじめな子、いろんな年齢のいろんな性格の子がいて、それが普通なんだと、お互いがお互いをありのまま認められること。そんな環境があれば、それが「ゆりかご」の役目を果たしてくれる。

あいかわアンビシャス広場は、親たちが中心になって作り上げた、他地域からも注目される合川小学校PTAの特徴的な素晴らしい活動です。その活動は2004年2月、県から表彰を受けました。この表彰は、久留米大学BBS会をはじめ、様々な活動で協力していただいた地域の多くの方々、理解を示してくれた先生方の連携が受賞のきっかけになりました。が、なによりも保護者の方々の積極的な下支えが底辺にあったと思っています。

現在、広場の設立当時の保護者は多くが小学校を卒業しています。卒業したメンバーの何人かは今も、学校キャンプなどのイベントで引き続きボランティアとしてご協力いただいています。私の子も既に大学生、高校生になりました。現在も広場の委員長を務めさせていただいていますが、私の現在の立場はPTA規約でいうところの「第4条 3：本校区在住のもので、本会の目的に賛同し入会を希望し」た者というところでしょうか。

少々長くやりすぎたかと、思うと同時に、今は安定した活動になっていますが、手探りで運営の工夫を続けていくうちに、うまく現役の保護者の皆さまへ引き継ぎが出来なかったこと、広場の存在の素晴らしさを伝えることが出来なかったことなど、大変反省しています。

広場の活動にとどまらず、子どもが小学校に在籍している間に、子どもたちから、先生方から、また地域の方々との出会いの中で、親の私自身素晴らしい勉強をさせていただきました。「ともに育ちあう」という言葉が、今は本当に実感でき、深く感謝しています。

願わくば、このアンビシャス広場という合川小学校PTAの委員会が、今後も子どもたちのこころを育ててゆく大きな母体でありつづけて欲しいと思います。

保護者の方々へ 参加していただきたい広場の活動

現在広場は原則的に週2回開所しています。

平日（木曜日）	15：00～16：30
土曜日	10：00～12：00

もちろん、学校行事との兼ね合いなどでお休みすることもあります。木曜日は特にイベントを決めずに子どもたちが自由に遊べるフリータイムにしています。天気が良ければ運動場で、雨の日は体育館を使います。現在、久留米大学BBS会の学生さんが5～6人、子どもたちと一緒にあそんでくれています。

広場ではあそびにやってくる子どもたちの名前をチェックします。担当される保護者スタッフの仕事はこの活動日誌の記帳と、万が一遊んでいる最中怪我をした子どもがいたときに保健室へ連れていってくれることです。

広場の活動はボランティア精神によって支えられています。子どもたちは各家庭の責任に於いてあそびに来ますが、怪我などの際には「福岡県PTA連合会保障制度」と「公民館総合保障制度」の保険が適用されます。

また土曜日には様々なイベントを行う場合がありますが、これらのイベントの運営体制などは毎月1回行われる運営会議（基本的に平日夜、19：00～於：校長室）で内容や担当を決定しています。

学校キャンプなど大がかりなイベントでは別途打ち合わせを行っています。

現在、特に木曜日の保護者スタッフが見つけれず、困っていますが、広場は子どもたちのために息の長い活動であるべきです。負担が大きければ開所日を減じながら、対応していくべきだと思っています。

子どもたちと一緒に遊びの時間を持とうと思われ方、御世話をときどきでも引き受けて良いよと思われ方、どうぞご参加ください。ともに子どもたちの成長を見つめていきましょう。

別紙にて参加についてのご意見を求めています。どうぞご自由なご意見をお待ちしています。

